

海域	経過 (12～1月)	現況(2月上旬～ 2月中旬)	見通し (3月～4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>・定地水温:12月は平年並み～やや低め、1月は平年並み～やや高めで推移した。</p> <p>・12月の海洋観測の結果、津軽暖流域の0m、50m、100m各層の最高水温はいずれも平年並みであった。また、津軽暖流の水塊深度、および東方への張り出しについても平年並みであった。</p>	<p>・定地水温:平年並みからやや高めで推移している。</p> <p>・2月の日本海海洋観測の結果、対馬暖流域の最高水温は0m、50m、100mの各層とも極めて高めであった。</p>	<p>・津軽暖流域の水温は高めで推移する。</p>	<p>・直近の太平洋沿岸定地水温は平年並みからやや高め、日本海海洋観測結果は高め基調で推移しており、太平洋および我が国周辺の漁海況予測システムFRA-ROMS IIでは、沿岸域は高め基調の予測となっている。</p> <p>・気象庁の季節予報によると、3～4月の気温は平年並み～高めと予報されている。</p>	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p><b>【12月】</b>(11/29) 時化等のため、尾崎0～10海里のみの観測となった。</p> <p>≪表面水温≫ 尾崎定線10海里以内は15～18℃台で、「やや高い」～「極めて高い」であった。</p> <p>≪100m深水温≫ 尾崎定線10海里以内は14℃台で「平年並」であった。</p> <p><b>【1月】</b> 時化等のため、全定点欠測となった。</p>	<p><b>【2月】</b>(2/12、15、16) 各定線の0～20海里の観測を実施。</p> <p>≪表面水温≫ 10海里以内は6～8℃台で、黒埼定線0～5海里、トドヶ埼定線0～5海里及び尾崎定線0海里が「やや高い」、黒埼定線及びトドヶ埼定線の10海里、尾崎定線5～10海里及び樺島定線0～10海里が「平年並」、20海里は6～10℃台でトドヶ埼定線及び尾崎定線の20海里が「平年並」、黒埼定線及び樺島定線の20海里が「やや高い」であった。</p> <p>≪100m深水温≫ 10海里内は6～9℃台で、黒埼定線5～10海里及びトドヶ埼定線5海里が「やや高い」、トドヶ埼定線10海里、尾崎定線5～10海里及び樺島定線5～10海里が「平年並」、20海里は6～7℃台で各定線とも「平年並」であった。</p>	<p><b>【3～4月】</b> 12月、1月定線観測において、欠測が多く(12月は28定点の内、25定点が欠測)、また、2月は各定線とも0～20海里までの観測のため、海域全体の今後の見通しが予測できなかった。</p> <p>FRA-ROMS II及び気象庁の海況予測図から、3月中旬は表面水温、100m深水温共に平年より高く、特に県南部においては顕著であると予想される。</p>	<p>FRA-ROMS IIの2025年3月14日予測図、気象庁海面予想図(令和7年3月14日予想図)による。</p>	<p>○12月上～中旬にかけて定置網でサンマが漁獲された。(主要6港の定置網の12月水揚量4.6トン)</p> <p>○例年、定置網は1月上～中旬で操業を終了するが、マイワシの入網が続いているため、操業を継続している定置網がある。(主要6港の1月の定置網による水揚量6,988トン、2月上旬の定置網の水揚量は2,236トン)</p>
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<p>宮城県沿岸の表面水温は、黒潮続流から波及する暖水の影響を受け、12月中は概ね2℃、1月中は4～5℃程度平年より高く推移した。</p>	<p>気温の低下と黒潮続流の流路の沖合移動にともない徐々に表面水温が低下したが、平年値より1～2℃程度高かった。</p>	<p>黒潮続流から切り離された暖水塊が三陸南部から常磐沖に停滞し、宮城県沿岸への暖水波及は継続する。</p> <p>牡鹿半島以北の沿岸域へは北から冷水が差込み、表面水温は「平年並み」から「やや高め」で推移する。</p>	<p>FRA-ROMS II、気象庁海面水温・海流1か月予報等による。</p>	<p>定置網でマイワシが豊漁。1月は過去5か年平均の2倍の4,570トンの水揚があった。</p>
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水海セ発表)	<p><b>【12月】</b> ≪100m深水温≫ 北部海域は「平年並み」 中部海域は「やや高い」 南部海域は「やや高い」 黒潮続流(200m深14℃以上)は塩屋埼定線(南部海域)の距岸60海里、富岡定線(中部海域)の距岸50海里、鵜ノ尾崎定線(北部海域)の距岸70海里に確認された。</p> <p><b>【1月】</b> 中部海域は「高い」 南部海域は「高い」 黒潮続流(200m深14℃以上)は確認されなかった。</p> <p>※ 北部:37° 50'N 中部:37° 25'N 南部:37° 00'N</p>	<p>2月17日以降実施予定。</p>	<p><b>【3月】</b> 「高い」～「極めて高い」</p> <p><b>【4月】</b> 「やや高い」～「高い」</p>	<p>・ FRA-ROMS IIの予測によると、3月の福島県海域142°00'E以西における100m深水温は、平年差+2℃～+4℃の領域が大半を占めており、「高い」～「極めて高い」に相当している。</p> <p>・ FRA-ROMS IIによると4月の100m深水温予測において、黒潮系暖水が波及していることから、水温の高い状態が継続すると考えられる。</p> <p>・ 気象庁の「海面水温・海流1か月予報」(令和7年2月10日発表、対象期間2月11日～3月10日)によると、本州東方の海面水温は「平年よりかなり高い」とされている。</p>	<p>いわき地区のヒラメは底びき網漁解禁後、例年10月頃から漁獲され始めるが、本年度は12月中旬頃から漁獲され始め、漁期が遅れた。(禁漁期間:7月～8月末)</p> <p>また、12月～1月の期間にまき網によるサバの漁場がほぼ形成されなかったが、一方でまき網によるマイワシの漁場が本県沖に</p>

					形成された。
常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県 沿岸; 茨城水試 発表)	<p>【12月】 平年と比較すると、0～50m深では黒潮からの暖水波及の影響により全域でやや高め～高め、100m以深では黒潮流路付近の141° 30'E以東でやや高め～極めて高め、他で平年並～やや高めとなった。</p> <p>【1月】 調査船の定期修繕により、1月の海洋観測は実施できなかった。気象庁「海洋の健康診断表」によると、三陸沖の暖水渦から暖水が波及しており、全層で概ね「平年並～やや高め」となった。</p>	調査船の定期修繕により、2月の海洋観測は実施できなかった。気象庁「海洋の健康診断表」によると、黒潮の北偏は継続しており、全層で概ね「やや高め」となった。	黒潮からの暖水波及が続いており、親潮の勢力が弱く冷水の影響がほとんど見られないことから、平年より高め傾向で推移する。	海洋の健康診断表、FRA-ROMS IIによる。	

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+3.3℃～	+3.8℃～	+6.1℃～	+5.8℃～	+4.9℃～	+6.1℃～
高い(7.5%)	+2.2～+3.2℃	+2.4～+3.7℃	+3.9～+6.0℃	+3.8～+5.7℃	+3.2～+4.8℃	+4.0～+6.0℃
やや高い(20%)	+0.9～+2.1℃	+1.0～+2.3℃	+1.6～+3.8℃	+1.5～+3.7℃	+1.3～+3.1℃	+1.6～+3.9℃
平年並(40%)	+0.8～-0.8℃	+0.9～-0.9℃	+1.5～-1.5℃	+1.4～-1.4℃	+1.2～-1.2℃	+1.5～-1.5℃
やや低い(20%)	-0.9～-2.1℃	-1.0～-2.3℃	-1.6～-3.8℃	-1.5～-3.7℃	-1.3～-3.1℃	-1.6～-3.9℃
低い(7.5%)	-2.2～-3.2℃	-2.4～-3.7℃	-3.9～-6.0℃	-3.8～-5.7℃	-3.2～-4.8℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.3℃～	-3.8℃～	-6.1℃～	-5.8℃～	-4.9℃～	-6.1℃～

1991年1月～2020年12月の100m深度の観測水温を基に階級区分している